考古アラカルト 7

織田信長ゆかりの遺跡を訪ねて

http://www.kyoto-arc.or.jp
（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

中京区元本能寺南町に建つ石碑

織田信長（1533 ～ 82）が、足利義昭を奉じて上洛するのが永禄十一年（1568）。そして、彼が本能寺の変で壮絶な最期を遂げるのが天正十年（1582）。信長と京都の直接の関わりはこの 15 年間の事です。その間京都における信長に関連する遺跡は、少しですが発掘調査でも明らかにされています。信長ゆかりの遺跡を訪ねてみましょう。

旧二条城跡

永禄十二年（1569）に信長が将軍義昭のために造営したといわれているのが旧二条城です。現存する二条城とは全く関係がなく、現在の京都御苑の西南部に隣接する付近にあったとされています。

1974 ～ 81 年の地下鉄烏丸線工事にともなう調査で烏丸通に接する出水通・下立売通・椹木町通・丸太町通の各交差点付近で石垣をともなう濠が発見されました。

石垣は「野面積」というほとんど手を加えない自然石をそのまま積んでいく工法で、石垣の面の部分は大小様々な石の凹凸が現われ、目地（石と石の継目）も揃っていません。また石垣の材料には、宣教師のルイス・フロイスが記した「日本史」によると、旧二条城造営に多数の石仏を使用したことが述べられています。この記載を裏付けるように石垣に石仏・供養碑・五輪塔など多数の石造物が転用されていました。

烏丸線の調査でみつかった旧二条城の石垣

紙本着色織田信長肖像画
長興寺蔵（写真提供　豊田市郷土資料館）

発見された石垣の一部は、京都御苑と二条城に復元し保存されています。また石垣の材料に転用された石造物は、洛西ニュータウンの東部丘陵地にある京都市洛西竹林公園内の生態園の一隅に保存され、見学することができます。

線刻がある石製碗（南蛮寺跡出土）
同志社大学歴史資料館蔵

南蛮寺跡

新しいものを好む信長は、外国から伝来したキリスト教を保護しました。南蛮寺とはキリスト教会のことであり、京都では現在の中京区姥柳町にあった南蛮寺が有名です。この寺は、信長の許可を受け、天正四年（1576）頃に建立された

竹林公園の石造物

と伝えられています。

1973年の同志社大学が行なった発掘調査では、南門と推定される位置から礎石が発見されています。また、裏面にキリスト教の儀式を線刻した石製硯が出土しています。

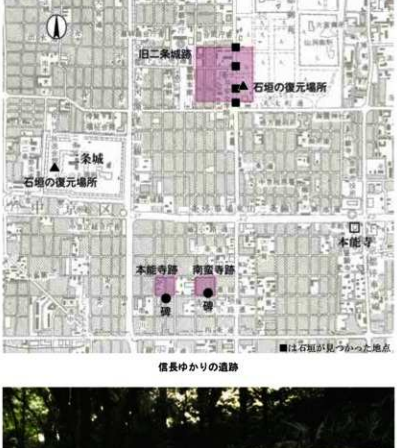
本能寺跡

天正十年六月二日、信長は本能寺において明智光秀の軍に攻められ49歳の生涯を終えます。本能寺跡は現在の本能寺（寺町通御池下る）と場所が違い、堀川高校（堀川通蛸薬師）の北東側に位置します。

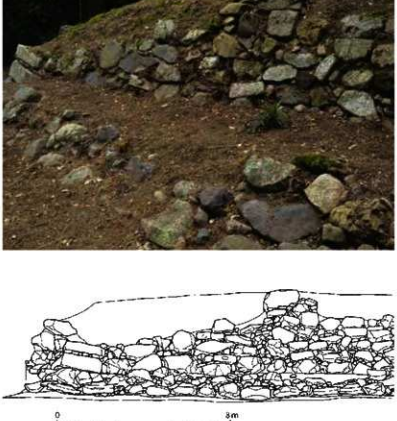
この付近では本格的な発掘調査は行なわれておらず、本能寺に関係する遺構・遺物はまだ発見されていません。ところで、このあたりから南西方向に約1.5km離れた京都市中央卸売市場の発掘調査で1982年、一発の火縄銃の弾丸（直径1.1cm、重さ８ｇ）が発見されました。この弾丸は、出土状況から信長の時代のものと考えられます。本能寺に向けて進軍中の光秀軍が桂川を渡り、当時丹波口と呼ばれた都の入口にあたるこの地で鉄砲隊が弾丸を込めて戦闘に備えた時に落としたものかも知れません。

京都の歴史における織田信長の時代は、あまりにも短すぎて遺跡も数えるほどでしかありません。しかし、これらの遺跡の推定地自体は範囲も広く未だ全貌がつかめていないのが実情です。今後市民の皆さんのご理解を得て、数多くの調査を進めていくことによって、信長が京都に残したものが明確になっていくことでしょう。

（吉本健吾）



信長ゆかりの遺跡



旧二条城の石垣（上）と実測図（下）
烏丸下立売で見つかった石垣が、現在の二条城に復元されている。